

外国人材派遣に力

セキショウキャリアプラス（つくば市）

元企業

挑む!



企業の人手不足が深刻化する中、外国人材を受け入れる動きが拡大している。関彰商事のグループ会社で人材派遣、人材紹介などを手がけるセキショウキャリアプラス（つくば市東新井、今里公治社長）は、ベトナム



セキショウキャリアプラスが開いた「SEKISHO JOB FAIR」は昨年11月、ベトナム・ハノイ

優秀な学生 発掘し紹介

ム高度人材と日本企業をマッチングする合同企業説明会・面接会を開催。今里社長は「企業は人手不足、人材不足が厳しくなっているが、ベトナムはまだまだ優秀な人材があふれている。（ベトナム人を）仕事のパートナーとして検討してほしい」と話す。

同社は2005年に設立し、人材派遣、紹介、マッチングなどの事業をスタート。現在はデマンド交通事業受託運営や教育現場で需要が高まるICT（情報通信技術）支援員の派遣などを展開しており、今里社長は「時代に応じた人材派遣を行ってきた」と話す。

本県では14年の日本貿易振興機構茨城貿易情報センター（ジエトロ茨城）開所を契機に企業のベトナム進出の機運が高まった。関彰商事は16年に現地法人を設立。キャリアプラスも同年、ベトナムでの合同企業説明会「SEKISHO JOB FAIR（セキショウ・ジョブフェア）」を初め

て開いた。フェアはハノイ工科大学を会場に、同大や他大学の学生や既卒者などが参加。2022年11月のフェアでは約1200人が県内企業や現地に拠点を持つ日本企業などのブースを訪れた。

同社によると、ベトナム人は親日的で、文化的にも親和性があることから日本への就労意欲が高いという。これまでのフェアをきっかけに来日した高度人材は製造業の設計部門、IT系企業のシステムエンジニアのほか、国際業務や総合企画などで活躍。先輩就労者などから話を聞き、興味を持つ学生も多い。

両国の外交樹立50周年を迎える今年は、さらなる機運醸成を図るため交流イベントを検討している。

今後の事業拡大に向け他の大学との連携も視野に入る。今里社長は「（製造やIT以外にも）建築土木や運送など、まだまだ不足している分野はある。それぞれの業種に強い大学を選んで、いくつかのジョブフェアを開催したい」と意気込む。

昨夏にはインドの大学と連携した合同企業説明会を初めて開催。今後も他の国々での開催を模索していく考えだ。（長洲光司）

◆ 企業データ ◆

〈設立〉 2005年11月
〈本社〉 つくば市東新井

〈資本金〉 6500万円
〈売上高〉 約6億7000万円
〈従業員数〉 89人（23年1月現在）

〈主な事業〉 人材派遣、人材紹介など、人材に関わる幅広いサービス。